

アレルギー症状を抑制

化合物探す技術

北大

北海道大学の金城政孝く質博士がくつつき、アレルギーのレルギーを抑える遺伝子症状を抑える化合物を探す技術を開発した。症状を抑える遺伝子を活性化させるたんばく質が、細胞内で働く様子を光で観察することに成功した。今後、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患で、遺伝子に働きかける新しい治療薬を開発するのに役立つとみている。

研究チームはグルコシルチコイド受容体と呼ぶたんばく質に注目した。特定の物質が結合すると同じ種類の2つのたんば

く質同士がくつつき、アレルギーのレルギーを抑える遺伝子症状を抑える化合物を探す技術を開発した。症状を抑える遺伝子を活性化させるたんばく質が、細胞内で働く様子を光で観察することに成功した。今後、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患で、遺伝子に働きかける新しい治療薬を開発するのに役立つとみている。

微小な領域にある2色の光の強さからたんばく質の強さを測ることができた。新技術で解析すると、たんばく質が核内で遺伝子を活性化する過程も分かった。これまでは活性化する遺伝子があるDNAの上でくつつくとされていた。だが、DNA上のポーツ(電子版)に搭載

既存の技術では試験管内にグルコシルチコイド受容体や化合物などを入れて実験していた。新技術を応用すれば、生体内の環境により近い細胞内で解析できる。研究成果は英科学誌サイエンスに発表された。